平成31年度　施設としての自己評価

千代田おひさまの森保育園

平素は千代田おひさまの森保育園の運営にご理解ご協力いただきまして、ありがとうございます。
以下の通り、園の自己評価を付けました。今後一層より良い園になるよう職員一同努力してまいります。

【1】どちらかというとできていなかった 【2】どちらかというとできていた 【3】ほぼできていた 【4】よくできていた

年目標	自己評価	内容
●保育内容（今年度の重点）		
絵本の選定の見直し 個々の子どもの発達や姿にあった絵本の選書を行う	3	0歳児は保育者とのコミュニケーションツールとして、2歳児は空想の世界に浸ったり、絵本の言葉を通して世界をイメージしたりする時間を意図的につくっていくことをねらいに各学年で、子供たちの姿や今の発達を捉え、分析し、個々にあった絵本の選定をし、実際に個々に対して実践し、記録としてまとめ、再度見直し選定の仕方や援助を検討することを繰り返し行いました。
言葉の発達に合わせた援助の見直し 子どもたちの発達の中でも言葉について着目し、発達に合わせた声掛けや援助を行う	3	言葉の発達について表出しているのも、表出してはいないが理解はあるもの、また個々の表現の仕方を分析し、発達に合った声掛けや援助を考えました。また、様々なパターンでの子どもたちの反応を記録し、分析することで日々の保育で見落としていた個々の理解度が鮮明になり、その子にとっての最適な援助を考えることが出来ました。
●職員研修		
個人情報保護について 個人情報保護について知識を深める	3	個人情報保護法について改めて全職員で学び、理解を深めました。園で取り扱っている個人の情報への考え方や扱い方を職員で揃え、徹底するためテストも行った。自分の不明瞭だったところも明確になり再度学ぶ機会が持てました。
体罰について 体罰とは何かを改めて学び、自分や園としてのあり方を考える	3	虐待については考える機会があったが、体罰について自己を振り返り、園としての在り方を振り返る機会があまりなかったため、職員の中での体罰についての考え方が揃いました。子どもへ暴力をふるうことだけではなく、発言、目線の送り方、雰囲気の作り方一つ一つが体罰に繋がってくることを理解し、日々の自己を見つめなおすきっかけとなった。
感染症対策について 感染症、感染症の対策について改めて学ぶ	2	感染症への知識を深め、感染症が出た際の職員の子どもへの対応、保護者への対応、また、感染症拡大防止策での環境、設備の変更点等再度理解を深めるため、テストを実施した。与薬指示書の確認の仕方、手洗いの手順、嘔吐処理、下痢の対応等日頃を見直すきっかけになりました。

【総評】

今年度では、日頃当たり前になっていたことや見落としがちだったことが明確になるような課題を多く持ったことから、自己を振り返るきっかけも多く、職員一人ひとりが考え方や捉え方から見つめ直し、大きく成長することができました。職員一人ひとりが自己の成長を感じることが出来たことがさらなる意欲や学びの姿勢に繋がり、話し合いの機会を多く持つことで、保育職員としてのプロ意識も高まり、研修や会議での学びを通して、根拠に基づいた保育を意識し、援助、保護者対応に繋がっていきました。次年度では引き続き、子供の発達を捉え、分析し、根拠に基づいた保育を提供できるよう、学びの機会を多く取り入れていきたいと思います。

令和2年4月1日
園長　　巻本栞奈